



地域情報

渋川



令和7(2025)年
第111号

3月

渋川学区のシンボルマークとマスコットキャラクター“しぶはなちゃん”

編集発行 渋川学区まちづくり協議会

(事務局：草津市立渋川まちづくりセンター内)

☎525-0025 草津市西渋川二丁目9番38号

☎077-569-0350 FAX 077-566-5143

メールアドレス shibukawa@machikyoku.jp

ウェブサイト <http://www.machikyoku.jp/shibukawa/>



渋川学区(2025年1月31日現在)

人口 9,554人

男性 4,780人 女性 4,774人

世帯数 4,559世帯

まちづくり協議会より

渋川学区の将来像 ～笑顔・ふれあい・思いやりのまち・渋川～

第3期まちづくり計画の策定へ



本年度が第2期まちづくり計画の最終年度に当たることから、昨年7月に『第3期まちづくり計画策定委員会』を立ち上げ、令和7年度から11年度までの当協議会の運営の根幹となる方針を決めるため、当協議会三役や各部会の代表者などで7回集まり議論を重ねてきました。

まず、部会毎に本年度までの5年間の事業の振り返りを行うとともに、9月には学区内全戸配付でアンケート調査を行い、学区住民の皆さんが日ごろ感じておられる課題を確認しました。時節柄、防災や防犯に対する関心が非常に高く、次いで地域の環境美化や高齢化の問題も課題として挙げられました。行政と連携しながら、当協議会として事業を通じて解決できそうな課題を今後の各部会や委員会事業に落とし込みました。完成したまちづくり計画は5月の総会を経てホームページにアップするなど学区に周知していきます。《まちづくり計画策定委員会》

まちづくり講演会を開催しました



2月1日(土)に、「渋川で『食べて生き抜く術』を学ぶ」というテーマで、講師に岩手県で現在も東日本大震災の復興支援を続けておられる(一社)ユナイテッドグリーン代表理事山田周生さんをお招きして、講演をしていただきました。総勢75人の参加がありました。

昨年からの地震の発生も多く、防災への関心が高まる中の開催で、様々な困難を乗り越えて来られた講師から多くの金言を伺うことができました。参加者からは「被災したら焦るだろうが防災や備えに正解はない。心構えとして突然何かあっても一呼吸つける余裕の大切さを学ぶことができた」という声がありました。今後学区の防災事業を考える際にも役立てたい心得を学ぶことができた有意義な講演会でした。《地域安全コミュニティ部会》 (1)



獅子舞奉納で賑やかに新年を祝う

1月18日(土)に、健康福祉部会主催で60歳以上の人の交流を深めることを目的に『新春お楽しみ会』を開催しました。最初に、伊勢大神楽講社の皆さんによる獅子舞奉納を見せていただきました。笛や鉦、太鼓に合わせてお獅子や天狗が向かい合ったり並んだりして表情豊かに踊ってくれました。舞い終わった後は、参加者だけでなく部会員などお獅子に頭をカブツとかんでもらって家内安全をお願いしました。その後、全員でかるた大会をし、多く取り札を取った人には素敵なプレゼントを渡しました。

最後は滋賀県よさこいチーム近江笑人の皆さんによるよさこい踊りの披露です。素敵な衣装に身を包み、鳴子や和傘、手ぬぐいなどを使って迫力ある演舞を見せてくださいました。振り付けを教わって全員で踊り、新年を賑やかに迎えることができました。参加者からは「久しぶりにお獅子を見てありがたかった」「よさこい踊りに元気をもらった」などの感想が寄せられました。《健康福祉部会》





～令和6年度をふりかえって

事業を通して人とつながることで地域に「ふれあい」を

地域安全コミュニティ部会では、「住環境美化への取り組み（登下校見守り、河川や散在性ごみ一斉清掃、花いっぱい運動など）」と「ふれあいまつり」、人材育成事業「渋川なんでもやる会」を担当しています。

10月に開催した「ふれあいまつり」では、子どもから高齢の人まで多くの人で賑わい大盛況でした。参加者は館内の展示作品を見学したり、各体験イベントにチャレンジしたり、草津東高校吹奏楽部の演奏やレイクスタアのパフォーマンス披露、親子での合唱の発表等があったステージを楽しみながらキッチンカーで買った食べ物を友人や家族と囲む姿も見られ交流が深まりました。

また、今年度から正式に始動した人材育成事業「渋川なんでもやる会」は役員ではなく得意なことを渋川で活かしたい有志16人で活動しています。綾羽高校でお菓子作り体験やエイスクエア内でかけっこ教室を開催するなど、渋川の地域資源を活かした事業を企画し中心市街地での新たな活動が話題になり市のまちづくり好事例に選出されたり市コミュニティ事業団から学区の取組みPRに招かれたりするなど、学区内外の人や組織との繋がりを広げることができました。結びに、一年間ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

《地域安全コミュニティ部会 部会長 武内優介》



年齢を重ねても健康で楽しく暮らせる渋川学区をめざして



渋川学区の皆さん、日ごろは健康福祉部会活動にご支援とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

私たち健康福祉部会では、学区内にお住いの皆さんが年齢を重ねても住み慣れた渋川で楽しく健康に暮らし続けられるよう、また参加者同士の交流を深めつつ健康増進につながるような取り組みを進めてきました。

各町内会での運営をお願いしている敬老会事業以外に三つの事業を開催しました。一つ目は適度な運動にチャレンジするきっかけとなるよう開催したウォーキング教室と体操教室です。11月開催の「日吉大社でノルディック・ウォーク」では、講師にノルディック・ウォークがいに健康に良いかを教わったのち日吉馬場や日吉大社で穴太衆の石積みなど歴史に触れながら歩くことができ好評でした。また、フレイル予防を目的に中原今日子さんにスクワットなど自宅でできる運動を学びました。



二つ目は、身体の健康増進に加えて心が豊かになるよう「秋のミニコンサート」や「お正月の寄せ植え教室」「新春お楽しみ会」を開催し音楽や園芸、獅子舞やよさこい踊りといった文化にふれる良い機会となりました。秋のミニコンサーでは障がいのある人や介助者も対象とし、家族とともに参加されていました。お楽しみ会の獅子舞の演舞では多くの方がスマホで撮影されていました。

三つ目は、福祉グッズの貸し出しで今年度は1月までに高齢者サロンや老人クラブの皆さんなど延べ40団体から借用申請があり、町内会館など身近な場所で楽しみながら活用していただくことができました。最後に、「まちづくりサポーター」の皆さんには各事業でご活躍いただきましたこと、この場を借りて心からお礼申し上げます。

来年度も多くの方のご参加をお待ちしております。

この一年間、事業運営にあたり、お世話になりました方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

《健康福祉部会 部会長 西川和宏》



各部会長より ご挨拶～



地域の子どもたちのすこやかな成長を願って

日ごろは、子ども育成部会の運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。当部会では、地域の大人と子どもたちがさまざまな体験を通して楽しく交流することや、青少年の健全な育成をめざして取り組んでいます。私たちは今年度、地域協働校事業で「じゃがいも収穫体験」と立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)に出向いて学生団体の指導のもと、不要になったパソコン本体をどれだけ細かく分解できるか競い合った「ぶんかいまつり」や「おやこ寄せ植え教室」を、青少年健全育成事業では日本の伝統的な木造建築のように柱と横材とを組み合わせるジャングルジムを組み立てる「くむんだー」と「あいさつ運動啓発作品&ぬりえ作品募集」「愛の声掛けパトロール」を開催してきました。

また、渋川まちづくりセンターエントランスホールの一角に、親子で絵本を楽しんだり保護者同士の友だちづくりの場として活用したりできるよう、多くの絵本を設置して「しぶはなちゃん広場」として乳幼児と保護者にご利用いただいています。利用者アンケートでも好評でした。



来年度もまた皆さんと一緒に楽しい事業を開催していきたいと思いますので、多くの子どもたちや保護者の皆さんの参加をお待ちしています。

《子ども育成部会 部会長 北川正子》



人権教育、伝統文化の継承、スポーツ大会の開催に取り組む



教育文化スポーツ部会では、教育面においては「人権事業」、文化事業においては「渋川花踊り」と「渋川の歌の活用推進」、スポーツ事業においては、渋川スポーツ振興会の皆さんの全面的な協力のもと「学区大運動会」および「春季・夏季・秋季スポーツ大会(ソフトボール・ベタック・ソフトバレーボール)」の開催、これら三つの事業に取り組んでおります。大運動会は、今年度はお天気にも恵まれ、優勝に向けて各町内会が団結して競技に臨みました。

人権学習では、町内懇談会に向けた打ち合わせを行ったのち、それぞれの町内会で懇談会が実施され、実践発表のつどいの場で渋川南三町内会から取り組みについての発表がありました。また、2月に開催した人権研修では今年度はセンターに講師を招いて『災害時における障がい者の状況』について学びました。

次年度も同様にこれら三分野の事業に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

《教育文化スポーツ部会 部会長 西川泰功》

渋川やすらぎ学級第7回開催

1月8日(水)に、みやもと薬局草津店管理薬剤師の宮本晃洋さんをお迎えして「おでかけ薬剤師と気軽にトーク〜医療や健康・お薬について〜」を開催しました。薬の正しい使い方、かかりつけ薬局とお薬手帳の活用方法、フレイルの予防、サプリメントの注意点の4つの観点から薬剤師さんの目線で受講生の皆さんに大変わかりやすく、多くの事例をまじえてお話していただきました。かかりつけの薬局をもつことで、日ごろから患者さんの体調の相談やお薬の適切な使用方法、薬の重複や飲み合わせのチェック、市販薬、健康食品などの相談にも対応していただけるそうです。受講生からは、「薬袋に書かれている薬の飲む時間がわかった」「薬を飲む時の水の量が血中濃度に関わってくるのがわかった」「飲み忘れた時の次回薬を飲むタイミングがわかった」など声がありました。お薬手帳やかかりつけ薬局の重要性について考える良い機会となりました。



赤十字奉仕団炊き出し訓練実施



2月7日(金)に、赤十字奉仕団草津第二分団主催で渋川まちづくりセンターの調理室を借りて炊き出し訓練を行いました。炊き込みご飯と豚汁を100人分準備していると、12時前から次々と地域情報誌を見た学区の皆さんやセンター利用者が来られました。災害現場でスムーズな炊き出しができるよう訓練をととしてメンバー同士段取りなどを共有し備えたいと思います。当日ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

《赤十字奉仕団草津第二分団》

災害時の障がい者の状況を学んで



2月8日(土)に、教育文化スポーツ部会で『人権研修』を開催しました。講師に、近江八幡市にあるきぬがさ福祉会の所長堀尾毅さんをお招きし「災害時における障がい者の状況」について映像を交えながら説明していただきました。東日本大震災などの災害で、市町が発信する情報が適切に届かず亡くなった障がい者も数多くおられ、テレビやスマホではなく普段からご近所や地域との交流を深めておく「あそこの家には要救助者がいる」と認識してもらうことが重要であるとともに、意思表示が困難でも持ち歩ける共通のカードがあると、なお良いとの話に頷く参加者がいました。

《教育文化スポーツ部会》

《職員の退職のお知らせ》

3月31日付けで職員孫子雅一が退職いたします。短い間でしたが、地域の皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございました。



来年度の 渋川やすらぎ学級 受講生を募集します

渋川まちづくりセンターでは、60歳以上の皆さんに学びの場を提供するとともに、受講生同士の交流を深めることを目的に毎年「渋川やすらぎ学級」を開催しています。来年度も、ニュースポーツの体験や転写シールを使って磁器に簡単にデザインができるポーセラーツ体験などさまざまな講座を予定しています。また、講座のあとは書道や生け花、ヨガのグループに分かれて、それぞれ講師に指導を受けることができます。詳しくは、3月1日号の広報くさつと同時に全戸配付する「渋川やすらぎ学級受講生募集」ちらしをご覧ください。なお、申込書に必要事項を記入し参加費を添えて渋川まちづくりセンターの窓口でお申し込みください。なお、各講座は諸事情により内容を変更したりやむを得ず中止したりする場合がありますので、何卒ご了承ください。

渋川まちづくりセンター利用者アンケートの結果報告

令和7年1月に、渋川まちづくりセンターの利用者を対象に「利用者アンケート」を実施しましたところ、313人から回答がありました。主な集計結果を報告いたします。**アンケートで「適切」「やや適切」と回答した人の割合**です。ご協力いただき、ありがとうございました。

◎貸館の手続きについては76.53%、当センターの備品管理については77.41%、各種団体への施設提供や支援については73.88%、またセンター内の清掃については82.30%、各種講座の開催など学びの場の提供については68.60%、学区広報誌やホームページでの情報発信については85.08%という結果でした。

(4) また、職員の対応は「適切」と「やや適切」を合わせて82.51%でした。